

令和4年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和 4 年 4 月 22 日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域の文化・言語		
担当者	氏名	所属機関・職	
	安達 大輔	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・准教授	
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	古宮 路子	東京大学・助教	20世紀ロシア文学
	研究テーマ		
	モダニズム文学におけるハイカルチャーの生存戦略		

研究成果の概要

【古宮の研究成果】

私の研究テーマは「モダニズム文学におけるハイカルチャーの生存戦略」であった。国際情勢によりロシアへの渡航が困難なことから、予定していた1920年代ソ連文学についてのアーカイブ資料の調査を、国立国会図書館など日本国内で行なった。ソ連において文学の大衆化を背景に登場したプロレタリア文学理論が、蔵原惟人らの活動を通じ、マジョリティとしての権威を伴って日本の文学に取り入れられ、規範化してゆくプロセスを明らかにした。研究の成果は、R5年3月2-3日にヴェネツィアで開催された国際学会“The Reception of East Slavic Literatures in the West and the East”において、ロシア語の口頭報告（資料は英語）Korehito Kurahara and “Proletarian Realism”：Proletarian literature in Japan in 1920s”で公開した。この学会には、安達先生も日本近代文学とロシア文学の関係を検討する立場から参加し、現地で意見交換を行った。

また、本年度は、著書『オレーシャ『羨望』草稿研究：人物造形の軌跡』（2021）が日本ロシア文学会賞を受賞したほか、「ユーリ・オレーシャ『羨望』の生成過程解明に基づいたソ連前期ロシア文学史の実証的研究」が理由となり、日本学術振興会賞を受賞した。著書の刊行は本年度の共同研究が開始する以前であるが、初期ソ連において労働者階級がマジョリティとなる中で、知識人オレーシャがマイノリティとして、大衆化する文化といかに向き合ったかという問題がテーマであり、生存戦略という共同研究班の課題に合致する。安達先生にお力添えをいただき、R5年2月14日にスラブ・ユーラシア研究センターにて、著書から内容の一部を取り上げた日本学術振興会賞受賞記念講演「ソ連知識人オレーシャの苦悩：ヴォロージャ像をめぐって（『オレーシャ『羨望』草稿研究：人物造形の軌跡』より）」を行った。

研究成果の概要（続き）

【海外研究者の招聘】

本年度は、オレーシャ研究の世界的権威であるイリーナ・オズョールナヤ氏をイスラエルから招聘した。R5年7月29日にはスラブ・ユーラシア研究センターで、講演「ユーリー・オレーシャと芸術家たちの時代：1920-40年代」を、8月1日には東京大学で（京都大学との合同ゼミの枠内）、講演「ユーリー・オレーシャの系譜とオデーサ時代（1902-1921年）を行っていただいた。オデーサで幼年時代を過ごしたポーランド系貴族の末裔というマイノリティのオレーシャが、ロシア革命前後の激動の時代をいかに生き延びたかという、生存戦略に直結するテーマであった。東京大学、京都大学の学生をはじめとするオーディエンスから多くの質問を受け、若手研究者との積極的な意見交換が行われた。

【今後の課題】

本年度の研究成果は、安達先生が代表を務める応募中の研究プロジェクトに引き継ぐ予定である。具体的には、初期ソ連における同伴者作家の大衆文化への適応プロセスを明らかにするために、「メロドラマ」をキーワードに文学作品やアーカイヴ資料を検証したい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

<雑誌論文>

- 古宮路子「リアリズムと心理主義——1920年代文壇におけるレフとラップの闘争をめぐって」『SLAVISTIKA』2022年、第36号、29-42頁。（謝辞なし）

<口頭報告>

- 古宮路子「ソ連知識人オレーシャの苦悩：ヴォロージャ像をめぐって（『オレーシャ『羨望』草稿研究：人物造形の軌跡』より）」於北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、2023年2月14日。
- Michiko Komiya, “Korehito Kurahara and “Proletarian Realism” : Proletarian literature in Japan in 1920s,” *International Conference: The Reception of East Slavic Literatures in the West and the East*, Venice, Ca’ Foscari University of Venice, March 2nd, 2023.

<図書>

- 古宮路子「アレクセイ・トルストイ『苦悩の中を行く』」中村唯史、坂庭淳史、小椋彩編著『ロシア文学からの旅：交錯する人と言葉』ミネルヴァ書房、2022年、100-101頁。

<翻訳>

- ユーリー・オレーシャ（古宮路子訳）「三人のふとっちょ」『小学館世界J文学館』小学館、2022年。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

- 令和5（2023）年度 国際共同研究加速基金「ポストソ連のメロドラマ文化」分担者（代表者：安達大輔）応募中。